

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 断熱性の高い建材を採用している。	4.0	0.58	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	2 外皮性能
	0.0	0.00				
	4.7	0.42	LR1 エネルギー	1 建物の熱負荷抑制		
小計	4.3	0.07				
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用		
小計	3.0	0.06				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 高効率な設備機器を採用している。	4.8	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化		
小計	4.8	0.28				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 主要な用途別に細かくエネルギー消費量を計測し、管理体制の整備、エネルギー消費量の目標値を設定して、エネルギーの効率的運用を計画している。	4.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.1 モニタリング	
	4.0	0.50	LR1 エネルギー	4 効率的運用	4.2 運用管理体制	
小計	4.0	0.11				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□ 節水器具、リサイクル材、再利用可能なユニット部材、材料使用量削減に寄与する材料・工法を積極的に採用している。	4.0	0.10	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
	3.0	0.11	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2 雑排水再利用システム導入の有無
	5.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	3.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	5.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	5.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	5.0	0.15	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	4.1	0.34				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 高効率な設備システムの導入により、CO2排出量の抑制に配慮している。	3.9	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
小計	3.9	0.14				
1.「地球温暖化対策」の推進の評価						
	4.2	0.72				
■2.「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.49	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
	3.0	0.24	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	3.0	0.27	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	3.0	0.96				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 駐車場・駐輪場の確保、出入りのしやすい駐車場を計画している。	5.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
小計	5.0	0.04				
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価						
	3.1	0.20				
■3.「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 制振装置を導入し、強風時の居住性の向上を図っている。 耐用年数の長い材料(外装・内装・ダクト・配管材)を採用している。	3.0	0.18	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震	1 耐震性
	4.0	0.27	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震	2 免震・制振性能
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
	5.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	5.0	0.05	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	5.0	0.05	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	4.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.11	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.8	0.58				
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画に特段に配慮した事項を記載してください。 OAフロア、システム天井の採用により、電気・通信配線は仕上材を痛めず更新・修繕可能な計画としている。	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給排水管の更新性
	5.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	5.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペースの確保
小計	3.4	0.42				
3.「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)						
	3.6	0.09				
■重点項目の総平均(上記3項目)						
	3.9					